

じょうこうじ

掟光寺だより

令和4年
9月号

行事案内

●9月23日(祝・金)

「秋彼岸会、

無縁墓・石像日蓮供養会」

13時30分から



お彼岸とは？

一般的にはお彼岸とは季節を表す言葉というイメージですね。「暑さ寒いも彼岸まで」という言葉もあります。また、この時期にお墓参りをするご家族も多いと思います。では、なぜこの時期に仏事・法事・お墓参りをするのでしょうか？

「彼岸」とは向こう岸という意味で、浄土を表します。つまり、仏さまの世界です。元々、梵語ではパーラミター(波羅蜜多)と言

い、「到彼岸」彼岸に到ると訳されたことから「お彼岸」と言うようになりまし

彼岸の反対は「此岸」こちらの岸という意味で、穢土・迷いの世界です。こちらの世界は皆さんご存知の通り、自分の欲を満たしたい、相手も欲を満たしたいという欲が渦巻く世界です。お互いの欲がぶつかり合い、ある物が増えたり減ったり、向こうより多くなったり少なくなったりします。思い通りになつたとしても新たな欲が生まれ満たされることはなく、思い通りにならないと腹が立ったり嫉妬も起ります。色々と面倒くさい、辛いことが多い世界が此岸です。この此岸でウロウロして一生を終える人も少なくありません。

でも、それではいけない。此岸にいては幸せになることはない。ということ「彼岸」を見つけたのがお釈迦さまです。つまり、お彼岸とはお釈迦さまのような仏さまの心に少しでも近づこうとする修行なのです。言う

ならば、「仏道の交通安全習慣」みたいなものでしょうか。この時期は普段以上に仏さまの教えに触れ、人間として成長しましょうということ



お彼岸は何をする？

では、彼岸に渡るために何をしたらいいのか？仏事に参加して仏の教えに触れたり、お墓参りも大切なことですが、古来から6つの修行があります(六波羅蜜)。

①「布施」ほどこす心。布施には3つ種類があります。「財施」金銭や物を他人へ施すこと「無畏施」他人の心配や苦勞を少なくし安心を与える行い「法施」自分が持っている知識や経験に基づいた知恵を他人に伝えることです。他に対して思いやりの心を運ぶことです。

②「持戒」たもつ心。「戒」は仏さまとの約束です。むやみに生き物を殺さない。盗まない。うそをつかない...など悪いことはやめましょうという教えを守り、身を慎むということです。

③「忍辱」受け入れれる心。どんな時でも寛容な気持ちを持ち、人に批判されても決して怒らず、逆に評価されたとしても謙虚に受け止めることです。

④「精進」努力する心。「精」とは混じり気なく純粹なという意味で、些細なことに囚われず、自分が目指す目的や目標に向かって、ひたむきに進むことです。

⑤「禅定」落ち着いた心。「禅」とは静かな心・不動の心という意味で、「定」とは心が落ち着いていて動揺しない状態を表すので、どんなことが起こっても迷ったり動揺することがなく、心が集中している状態を指します。

⑥「智慧」普段私たちが使っている知識としての知恵ではなく、正しいものの見方やものごとの本当の姿を見分ける力が「智慧」になります。仏さまの正しい教えを聞き、自分の生活を観察・反省し、教えを実践することです。

以上、6つです。全部はなかなか難しいと思いますが、どれか一つでも心がけてやってみて、その功德をもつて亡き精霊にご回向したいものです。

